



# スキルアップ補助金利用内容について 高度教養教育学生支援機構・島崎薫

## ・目的

本出張の目的は、“International Conference on Japanese Language Education 2016”(ICJLE2016)に出席し、パネル発表を行うことであった。同会議は日本語教育分野における最大の国際学会で、2年に1度開催される。様々な分野の発表が行われるだけでなく、世界の日本語教育の動向に関する情報共有の貴重な場となっている。共同発表者が12月に出版する本を分担執筆しており、このパネル発表の一部が含まれる予定で、その打ち合わせも行うこともこの出張の目的であった。

## ・旅程

平成28年9月7日(水)  
仙台-デンバサー(インドネシア)

平成28年9月8日(木)  
パネル発表者と打ち合わせ

平成28年9月9日(金)~10日(土)  
ICJLE2016に出席

平成28年9月11日(日)~12日(月)  
デンバサー(インドネシア)-仙台

## ・講演等内容について

発表したパネルは、4つの発表から構成されており、そのうちの1つと、チェアを担当した。日本語学習者が所属している実践コミュニティ(Community of Practice: CoP)から別のCoPに「越境」し、そこでどのような日本語の使用の変化や学びが起こるのかを4つの事例をもとに議論を進めた。これまでに「越境」の概念を言語学習に用いた先行研究はほとんどなく、新しい知見と言える。

## ・本制度を利用することによって得られた効果

- 世界の日本語教育における様々な実践、研究について見聞を深めることができた。
- 同じパネル発表者だけではなく、聴衆とも深いディスカッションを行うことができ、今後の研究を進めるにあたって、より広い見地で考えるきっかけを得ることができた。
- 世界で日本語教育に関わる研究者や教育実践者とのネットワーキングができ、特に若手や大学院生とのつながりを築くことができた。



Conference dinnerで世界の若手研究者や大学院生と

## ・研究内容紹介

日本語学習者が言語そのものを学ぶだけではなく、言語の使い手として社会とどうかかわり、そこからどのように学んでいるのかを研究している。

本パネルの一部は、トムソン木下千尋(編)『外国語の実践コミュニティを造る 一オセアニアの日本語実践コミュニティの研究と事例から一』(ココ出版)に掲載予定。